

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

機能的消化管疾患ガイドライン

一般社団法人日本小児心身医学会機能的消化管疾患ワーキンググループ
子どもの心とからだ 日本小児心身医学会雑誌 34 巻 1 号 2025 年 5 月発行

Minds 掲載 無

■1 漢方薬

疾患:

機能的ディスぺプシア

引用など:

- 1) Drossman DA, Chang L, Chey W D, et al. The Rome IV Committees. Rome IV functional gastrointestinal disorders -disorders of gut brain interaction, 4th ed, I. Raleigh, NC: The Rome Foundation, 2016.
- 2) 日本消化器病学会 (編) . 機能的消化管疾患診療ガイドライン 2021]—機能的ディスぺプシア (FD) 改訂第 2 版. 東京:南江堂, 2021.

有効性に関する記載ないしその要約:

『II 上部消化管疾患』機能的ディスぺプシアの薬物療法の項に以下の記載がある

『心窩部痛を中心とした EPS には、H2 受容体拮抗薬やプロトンポンプ阻害剤 (proton pump inhibitor: PPI) などの制酸剤の使用が第一選択です。また PDS と同様、胃の過敏性と機能調整のために、消化管運動機能改善薬や漢方薬を使用します』

■2 六君子湯

疾患:

機能性ディスぺプシア

引用など:

Tominaga K, Sakata Y, Kusunoki H, et al. Rikkunshito simultaneously improves dyspepsia correlated with anxiety in patients with functional dyspepsia: A randomized clinical trial (the DREAM study). *Neurogastroenterol Motil* 2018; 30: e13319.

[EKAT 構造化抄録 \[PDF\]](#)

有効性に関する記載ないしその要約:

『II 上部消化管疾患』機能性ディスぺプシアの薬物療法の項に以下の記載がある
『漢方薬で六君子湯は、胃運動機能改善などの薬理学的作用が解明されています。消化器症状に加えて不安症状に対する改善作用もみられ、FD のエビデンスのある治療薬です』

■3 半夏厚朴湯

疾患:

上腹部痛、消化器不良症状

引用など:

日本消化器病学会 (編). 機能性消化管疾患診療ガイドライン 2021 - 機能性ディスぺプシア (FD) 改訂第 2 版. 東京:南江堂, 2021.

有効性に関する記載ないしその要約:

『II 上部消化管疾患』機能性ディスぺプシアの薬物療法の項に以下の記載がある
『他の漢方薬では、半夏厚朴湯が上腹部痛、消化器不良症状の改善に有効であると報告があります』

■4 漢方薬 (六君子湯・半夏瀉心湯)

疾患:

逆流性食道炎症状

引用など:

日本消化器病学会 (編). 胃食道逆流症 (GERD) 診療ガイドライン 2021 改訂第 3 版 東京:南江堂, 2021.

有効性に関する記載ないしその要約:

『Ⅱ 上部消化管疾患』胃食道逆流症 (GERD) の薬物療法の項に以下の記載がある
『消化管運動機能改善薬 (モサプリド・アコチアミド), 漢方薬 (六君子湯・半夏瀉心湯)を
PPI と併用することで症状改善効果が得られると報告されています』

■5 桂枝加芍薬湯

疾患:

腹痛

■6 大建中湯

疾患:

便秘

■7 半夏瀉心湯

疾患:

下痢

<以上 5~7 の記載として>

有効性に関する記載ないしその要約:

『Ⅲ 下部消化管疾患』機能性下痢の薬物療法の項に以下の記載がある
『漢方薬では, 腹痛に対して桂枝加芍薬湯, 便秘に対して大建中湯, 下痢に対して半夏瀉心湯が有効な場合があります。』

備考:

「表 21 治療薬一覧」の便秘型・下痢型 IBS (共通) の項に桂枝加芍薬湯、便秘型 IBS に大建中湯、下痢型 IBS に半夏瀉心湯の記載がある

小児心身医学会ガイドライン集改訂第 3 版では「小児機能性消化管疾患ガイドライン」として記載